病院から退院時にこんな情報が欲しいですという情報を整理したりとか。色々な事で，次々と地域連携の取組が発展していったと思います。現場の困りごとを聞き，それを拾い上げ，何か出来ないかなということを，一つ一つ改善していける地域になっていったと感じます。やっぱり地元の現場の声を無視してはだめだし，やれることをそれぞれの機関がやることが大事だとすごく感じました。

武田

連絡票を使っていると，FAXなので作業の手を休める必要がないので，そこはすごく有意義だなと思っています。小松さんの苦労の甲斐もあって，記入するところも，ほとんどチェックを入れるだけで済むように作ってくれていますので，仕事が楽になる，負担なく連携をとらせてもらっていると思います。

村岡

作る時に「FAXで」とお願いしたんですね。FAXだと記録に残るし，日付が入る。FAXだったら手が空いている時にチェックを入れて返信できる。それがすごく楽になった。実際にやりとりすることで，ケアマネさんがわかってくる。急ぐ場合は連絡をとって，時間を指定して来てもらうことができるようになった。

菅原

一番進化したのは自分自身だと思うんですね。我々は外来に来た患者さん本人から訴えを聞いて治療する。それが主な仕事なんですけど，ケアマネジャーさんから「こういうふうにしたいんだけどどうでしょうか。」とか相談されることで，自分自身が兜の緒を締めるようになったんですね。プロの方から信任を得て，相談されて，お願いされるので，私もきちんとその希望や要望に添えるように自己研鑽というんですか。自分磨きを常にしておいて，他の職種の方から色々なことを聞かれた時に，的確に答えられるように，希望や要望に添えるように，自分磨きをするようになりました。ちょっとアプローチは違うんですけど。

森田

良い意味では垣根が低くなったことはあったかと思います。いわゆるアポ取り票のため，医療内容については，連携連絡票で解決できる内容ではありま

せん。ですので，「直接会って話をします」という項目もあります。実際，連携連絡票として収まらないものについては，その辺の周知もさらに深めていく必要があると感じています。医療保険と介護保険とに区分をすることになるものなので，そのためには先生の指示が必要ですとか，介護保険上，医師の指示があれば看護師がいなくても訪問入浴ができるということも教えていただいたこともありました。以前は，ケアマネジャーさんがご挨拶するためだけにいらしたこともありました。二時間も三時間もお待ちになって，やっと挨拶と思ったら，「なんで来たの」という話になるんだと。それは非常に申し訳ないという話なんですけど。最近だと，医療系サービスの導入の意見を確認した方のケアプランを医師に示すようになりましたし，メールで届けて頂くこともあります。もし，連携連絡票がなかったらと思うとぞっとします。どうなっていたのだろうと。

築場

医療と介護が連携することによって，「気仙沼・南三陸地域の要介護者とその家族が，これまで以上に安心して介護サービスを利用できる」ことに繋がっているのだと感じました。

コロナ禍の連携

ワクチン接種率の向上

築場

現在，新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっていますが，コロナ対策などを講じる際に，感じていらっしゃる点はありますか？

村岡

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種は，集団接種が効率的。いい意味で分業が出来たのかなと思います。薬剤師会が薬液を詰めてくれている。医師は問診，チェックしてサインして流れ作業ででき